

招 集 期 日	平成 2 8 年 1 0 月 2 0 日 ( 木 )		会議の場所	教育委員室
会議の時刻 及び宣告者	開会の時刻	午後 3 時 0 0 分	開 会 者	教 育 長
	閉会の時刻	午後 4 時 2 5 分	閉 会 者	教 育 長
委 員 出 席 状 況				
氏 名	摘 要	氏 名	摘 要	
秋 本 文 子 教 育 長	出 席	柿 沼 拓 弥 委 員	出 席	
古市明教育長職務代理者	出 席	高 瀬 賢 一 委 員	出 席	
春 山 教 子 委 員	出 席			
議 事 参 与 者 及 び 説明のための出席者	佐藤学校教育部長	赤坂生涯学習部長	橋本教育総務課長	栗原学校教育課長
	小島学校給食センター所長	池澤生涯学習課長	山木スポーツ振興課長	奥野図書館長兼郷土資料館長
書 記 名	教育総務課総務係 横山			
会議事件名	て ん 末			
開 会		10 月定例教育委員会を開会		
日程第 1 新任委員の紹介	教育長	<p>教育委員会の会議は原則公開であるが、人事に関する事件その他の事件について出席委員の 3 分の 2 以上の多数で議決したときは公開しないことができる。今回の日程で、日程第 4 の議案第 47 号は人事案件となるため、非公開としてよろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p> <p>議案第 47 号は非公開とする。</p>		
日程第 2 前回会議録の承認	教育長	高瀬委員	<p>去る 9 月 30 日をもって、任期が満了した岩本委員の後任として 10 月 1 日付で市長より任命された高瀬賢一委員である。</p> <p>教育長より紹介いただいた高瀬です。よろしくお願いいたします。</p> <p>9 月定例教育委員会の会議録の承認について諮った。</p>	

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第3 報告事項1 平成28年9月定例市議会提出（教育委員会関係）議案等について</p>	教育長	<p>異議なしの声あり</p> <p>9月定例教育委員会の会議録は承認された旨宣した。</p>
	教育長	<p>第7回臨時教育委員会の会議録の承認について諮った。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	教育長	<p>第7回臨時教育委員会の会議録は承認された旨宣した。</p>
	教育長	<p>報告事項1について、学校教育部長及び生涯学習部長から説明を求めた。</p>
	学校教育部長	<p>中島直樹議員から平成27年度羽生市一般会計歳入歳出決算について議案質疑があった。入学準備金貸付事業で申請者がおらず、予算額200万円が活用されていないことについて、事業が利用しづらいのではないかとということである。これに対し、償還期間に6ヶ月の据え置き期間を設けているが、経済的に困窮する家庭への支援を考え、大学生については猶予期間を卒業まで延長することを検討していくと答弁した。</p> <p>野中一城議員から同決算についての議案質疑があった。児童生徒側わん症検査委託料について、どのように実施し、どのような成果があったかという内容である。これについては、当該事業の検査状況や児童生徒及び保護者への指導の在り方、当該事業の分析及びその効果について説明し、脊柱側わん症への対応は、早期発見、早期治療が大変重要であるため、今後も積極的に継続していくと答弁した。</p> <p>斉藤隆議員から、コミュニティスクールについて、羽生市の現状と今後どう進めて行くかという内容の一般質問があった。今年度より川俣小学校をモデル校としてコミュニティスクール推進委員会設置校の2年間の指定を行い、その成果と課題を検証し、来年度は約半数の小学校でコミュニティスクール推進委員会を設置できるよう働きかけていく予定である。そして平成30年度</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>には、全小学校に学校運営協議会を設置して地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定されている正式なコミュニティスクールとし、さらにその先は、全中学校に設置できるよう取り組んでいくと答弁した。</p> <p>野中一城議員から、中学校運動部の活動についての一般質問があった。運動部の活動は、生徒の健全育成に大きな効果がある一方で、過度な練習により、睡眠や学習時間の不足、教員の負担増などが懸念されているという内容である。これに対し、運動部の活動実態については、全部活動のうち約半分が週1日以上以上の休養日を設けており、1日あたりの活動時間は、平均1.6時間であること、羽生市教育委員会としては、平成28年3月29日の県教委の通知「効果的な部活動指導の在り方について」を基に、平日の活動時間は原則2時間以内、週休日の活動は原則としてどちらかを休みとすることを基準として設定し、再度中学校に指導していくと答弁した。</p> <p>柳沢暁議員から、子どもの貧困対策としての就学援助についての一般質問があった。羽生市は国や県の平均よりも就学援助率が低いのではないかという内容であるが、平成27年度の就学援助費の申請者数は554人であり、制度の周知徹底により5年間で86人増加していることを説明した。羽生市では、就学援助費支給に係る認定基準を対象世帯の所得額が生活保護基準の1.5倍以下であることとしており、他の多くの市町村よりも認定されやすいにも関わらず、就学援助率は埼玉県全体の平均値13.12%よりも低い11.66%となっていることについては、羽生市は県内でも生活保護世帯の数が少ないことを理由の一つとして挙げて答弁した。</p> <p>生涯学習部長 永沼正人議員から、2020年東京五輪における羽生市の海外選手団の事前合宿誘致について一般質問があった。1点目の事前合宿誘致活動についての見解については、海外選手団のキャンプ誘致は、トップアスリートとのスポーツ交流により市民に夢と希望を与え、さらには地域の活性化などが期待されるため、今年4月にプロジェクトチームを設置し、キャンプ誘致や大会を盛り上げるための取組を行っている。また、8月に県が実施したキャンプ地誘致のアンケート調査では、誘致したいという意向を示した。これまで姉妹都市との交流を深めてきたフィリピン及び</p>

会議事件名	て ん 末	
	<p>学校教育部長</p>	<p>ベルギーの選手団を迎えることができると考えていることを説明した。2点目の各自治体の誘致活動の現状把握については、県が昨年11月に設置した「2020オリンピック・パラリンピック/ラグビーワールドカップ2019埼玉県推進委員会」においての情報交換の場に参加する等、情報収集に努めており、今後も国や県のオリンピック・パラリンピックに対する取組の動向に注意していきたいと答弁した。3点目の誘致計画の策定についての見解についてであるが、事前キャンプ地の誘致において、選手のコンディション調整を第一に考え、練習施設や宿泊施設、医療体制や警備体制を整える必要があり、その中で練習施設としては、羽生中央公園や市体育館があげられる。これらの施設については、国際競技連盟が定めた施設や設備の基準を満たすための改修に大きな費用負担が求められるため、現時点では施設整備計画を策定するには至っていないが、誘致する相手国との競技種目の調整をする中で、国の地方財政措置の可能性を探り、改修の必要性について総合的に検討を進めたいと説明した。4点目のラグビーワールドカップ2019での対応予定については、組織委員会では公認キャンプ地のガイドラインを示し、応募を受け付けている状況ではあるが、本市にはラグビーの専用グラウンドがなく、キャンプ地として誘致するには非常に厳しい状況ではあるものの、試合が開催される熊谷市と近接した位置にあることから、例えば市内宿泊施設の受け入れ調整など、対応可能な部分があれば、連携していきたいと答弁した。</p> <p>永沼正人議員から、学校給食応援団制度について、羽生市における学校給食の地元産食材の使用状況を尋ねる一般質問があった。子ども達が地元農産物への理解を深め、郷土愛や食育を考えるきっかけになるのではないかとこの事であったが、学校給食における地産地消率は、平成25年度までは増加傾向にあったが、その後若干低下していることを説明した。</p> <p>丑久保恒行議員から、奨学金・貸付金制度と貧困家庭救済について一般質問があった。当市の育英資金、奨学資金給与制度について、さらに拡充する意向はあるかという趣旨であるが、これについては、埼玉県内で給付型の奨学金制度を実施している市町村は大変少なく、特に大学生を対象としているものはほとんど無い</p>

会議事件名	て ん 末	
	生涯学習部長	<p>ことから、羽生市の奨学金制度は他市に例をみない制度であることを説明した。制度の拡充については、育英資金の申請者数はここ数年間、定員である 10 名に達していない状況であること、奨学資金の申請者については、年度によりばらつきがある状況であることから、募集人数は適正であり、金額についても他市に誇れる制度であること及び高校の授業料無償化の影響を鑑み、現行の制度のままで良いと考えると答弁した。</p> <p>島村議員から、羽生市中学生海外派遣事業についての一般質問があった。これに対しては、派遣する中学生の選考方法、引率者の選考方法、どんなことを学んでくるのかということについて説明した。</p> <p>奥沢和明議員から、地域史発掘事業の検証と今後及びムジナモ自生地 PR 事業について一般質問があった。地域史発掘事業は、住民が自らの地域の歴史資産等の文化資源を掘り起こし、地域を活性化することを目的として、現在は新郷地区、三田ヶ谷地区、村君地区、須影地区の 4 地区で取組んでいる。事業の実績としては、失われつつあった貴重な資料や文化財を発掘することができたと同時に、住民自身に文化財への保持・保全の意識が芽生えてきたことを挙げ、まだ取組んでいない地域に対し、公民館を通して文化財保護関係者や地域住民に声をかけていくと答弁した。ムジナモ自生地の PR 事業については、ムジナモ自生地では、ムジナモの数が約 12 万 7 千株に増え、昨年の約 13 倍となっている現状を説明した。本年は宝蔵寺沼ムジナモ自生地が国の天然記念物の指定を受けて 50 年という節目の年であり、50 周年記念事業の一環として、自生地の見学会を開催したところ、市外からも多くの参加があるなど大変好評で、幸運にもムジナモの花を見る事ができた。今後の方針については、宝蔵寺沼ムジナモ自生地保存管理計画に基づき、新たに放流することなく、ムジナモが常時生育する状況を目指していくと答弁した。</p>
	学校教育部長	<p>保泉和正議員から、学校教育における自衛隊の紹介方法についての一般質問があった。羽生市では教育の場において自衛隊についてどのように教えているのかという内容であった。これに対し、中学校社会科の公民の教科書でも自衛隊は近年、日本の防衛だけ</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項2 夏休みキャロットルームクールシェアの結果について</p> <p>報告事項3 高校生インストラクター講座の結果について</p> <p>報告事項4 第19回羽生市吹奏楽フェスティバルの結果について</p>	<p>教育長</p> <p>生涯学習課長</p> <p>生涯学習課長</p> <p>生涯学習課長</p>	<p>でなく、国際貢献として様々な活動を行っている」と記載されていることを説明し、学校教育では自衛隊の日本の防衛、国際貢献、世界への復興支援、災害派遣を考えたときの重要性について教えると同時に、憲法9条に対し違憲ではないかとの考えや、海外派遣に対する慎重論など様々な考え方があることを学び、子ども達の多角的、多面的な考え方を養えるよう指導していくと答弁した。</p> <p>報告事項2から4について、生涯学習課長の説明を求めた。</p> <p>8月17日から19日の3日間で、NPO法人羽生子育てサポートキャロットと中央公民館の共催で、中央公民館を会場として実施した。内容は学習タイム、ランチタイム、リラックスタイムの3部構成とし、55名の小学生が参加した。アンケートによると参加者の満足度が高かったことがうかがい知れ、来年も開催して欲しいという意見があった。100円の費用負担でランチを提供し、食育の機会にも繋がった。今後も各種団体と協力しながら継続して子ども達の居場所づくりをしたいと考えている。</p> <p>羽生実業高等学校園芸科の3名の生徒を講師として、秋の素材を使ったクリスマスリース作りを行った。12名の参加があり、受講生は非常に楽しく作品作りに取り組み、講師の高校生ともよく交流していた。高校生も初めての経験であったが、受講生の大人達に教えることで、逆に学んだという達成感があったようである。顧問の先生が北海道から大きな松ぼっくりを調達してきて作品に使ったりして、付加価値のある講座となった。</p> <p>10月2日に産業文化ホール大ホールで開催した。市内3中学校をはじめ全11団体が出場し、入場者数は昨年より多く、1,049名であった。出場者にとっては、最後に行う合同演奏が、交流の場となっている。また、吹奏楽マスタークリニックと題して、市内</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項5 第34回羽生市教育長杯争奪中学野球大会の結果について</p> <p>報告事項6 平成28年度ニューススポーツ出前教室の開催について</p> <p>報告事項7 第32回羽生市綱引選手権大会の開催について</p>	<p>教育長</p> <p>スポーツ振興課長</p> <p>スポーツ振興課長</p> <p>スポーツ振興課長</p>	<p>3 中学校の生徒が 9 月 3 日に産業文化ホールにて各楽器の専門家である講師 9 名より指導を受けた。今年は 2 年目となるが、昨年に比べ、自分から積極的に質問をする等、前向きな姿勢が伺えたとのことである。</p> <p>報告事項 5 から 8 について、スポーツ振興課長から説明を求めた。</p> <p>9 月 10 日、11 日に羽生中央公園野球場にて開催した。市内 3 中学校に普段では交流が難しい、県内でも強豪とされるチームを招待し、全 8 チームが出場した。全試合において熱戦が繰り広げられ、団体賞はさいたま市立大谷場中学校が前年度に引き続き優勝し、準優勝は羽生市立西中学校、3 位が羽生市立東中学校及び三郷市立北中学校となった。個人賞は、大谷場中学校の選手が最優秀選手賞及び優秀選手賞、西中学校の選手が敢闘賞を受賞した。</p> <p>スポーツ推進委員が各地区に出向きニューススポーツの指導などを行う教室である。今年度は健康づくり推進課の協力のもと、羽生市健康チャレンジ指定事業の一環として健康に関する講話をいただく、共にムジナもん体操、スポーツ推進委員考案のパスラグビーの種目の紹介や体験を行う予定である。ラグビーは衝突が激しく、ルールも複雑であるため、これらを簡単・安全かつ手軽にプレーできるよう改良したニューススポーツがパスラグビーである。</p> <p>12 月 11 日に、羽生市体育館メインアリーナを会場として開催する。チーム編成は中学生以上の一般男子の部、一般女子の部及び小学生の部とする。昨年度 36 チーム計 392 名の参加があった。表彰については、上位 3 チームの他、敢闘賞、ねばり賞、監督賞、ファッション賞などの楽しい各賞を用意し、大会を盛り上げたい。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項8 平成28年度トップアスリート育成事業羽生市バスケットボール教室（第2回）の開催について</p>	<p>スポーツ振興課長</p>	<p>9月3日にBリーグの埼玉ブロンコスを招いて実施した第1回に引き続き、第2回目となるバスケットボール教室を開催する。12月17日に羽生市体育館にて開催する。明治大学バスケットボール部の約30名の選手を指導者として招く予定であり、対象者は市内小中学校の児童生徒、指導者及び保護者とする。</p>
<p>報告事項9 ふるさと講座Ⅰ「古文書から読む地方史」の結果について</p>	<p>教育長</p> <p>図書館長兼郷土資料館長</p> <p>教育長</p> <p>古市委員</p> <p>生涯学習課長</p> <p>春山委員</p>	<p>報告事項9について、図書館長兼郷土資料館長から説明を求めた。</p> <p>9月25日に図書館の視聴覚室にて、羽生市文化財保護審議委員や埼玉純真短期大学の講師を務める坂田英昭氏を講師として開催した。受講者数は23名であり、初心者からある程度古文書になれた方まで幅広いレベル、幅広い年齢の方の参加があった。講義には、中手子林にある文殊院所蔵の「文殊院文書」を使用した。古文書を読むことを通して、地域の歴史に触れるということを主な目的として、今後も継続して開催したい。</p> <p>報告事項に関して質問・意見を求めた。</p> <p>羽生市吹奏楽フェスティバルを聴きに行ってきたが、素晴らしい演奏であった。次回は20回目となるが、これを記念して何かできないか。</p> <p>来年度は出場団体を募集して開催することに加え、来場者に聴かせることができる何らかの企画を考えていきたい。</p> <p>夏休みキャロットルームクールシェアでは中央公民館に関わる多くの組織の方々の協力を得て、良い内容で開催できたと思う。昔と違い、子ども達が夏休みに外で自由に遊んだり、友達同士で交流する機会が少なくなり、それぞれが家に閉じ籠っている状況が沢山あると思う。もし中央公民館以外の所でも今回のような事</p>



会議事件名	て ん 末	
		<p>業ができれば地域ぐるみの子育て、夏休みの子ども支援に繋がると思う。子ども達への支援については、生涯学習課では家庭教育の支援、学校教育課でも家庭、学校、地域が一体となった教育の推進ということを施策に掲げている。また、社会福祉課や社会福祉協議会では、生活困窮者自立支援法等にのっとり家庭の自立支援、学習支援をしている。行政の特徴だと思うが、それぞれの立場で取組んでいるのだが、情報の共有等の連携が不十分な気がする。市長との総合教育会議においても、これからは横の連携体制を構築しなくてはいけないという指摘があった。壮大なことになるが、横の繋がりをどう作っていくか、方策があれば提案いただきたい。</p> <p>生涯学習課長      ご指摘のあった行政の部所間の連携については、NPO 法人という核となる部分ができただけにより、そこを中心として連絡が取り易くなっていくのではないかと考える。生涯学習課も他の課としっかり連携を取れるように心がけていきたい。今後人権推進課と共同で家庭教育の講座等の実施も予定しており、情報を共有しながら積み重ねていきたい。</p> <p>古市委員          羽生子育てサポートキャロットは、非常に広い視野で考えて事業を展開していると思う。市全体を見渡し、市民全体、その中の子ども達という見方で考えていくと行政内部の横の連携が必要であることが見えてくるのだと思う。できることを一つ一つ実現していただくと有難い。</p> <p>教育長            夏休みキャロットルームクールシェアは、様々な分野の多くの団体が関わっており、民官連携がよくできている素晴らしい事業であると感じる。参加者の中には、支援が必要な家庭の子どももいるかも知れないので、関係団体に民生委員児童委員が入っていることは心強く、ある意味羽生市の目玉になる取組だったと思う。当日は社会福祉課の職員も来てくれたと伺っているため、今後良い連携が深めていけることを期待している。</p> <p>春山委員          教育長が「学力向上推進元年」と打ち出したが、その実現には家庭、地域、学校の連携が必要であると思う。直接的には学校が</p>

会議事件名	て ん 末	
	学校教育部長	<p>進めるが、それを支えているのは各家庭であり、地域であり、これから進めようとしているコミュニティスクールも大いに関係がある。連携と言いながらも実際は本当に手を差し伸べる必要がある子がいるのに見えてこないのが歯がゆいところである。何とか一歩進めるためには、社会福祉課との連携が重要だと感じる。</p>
	古市委員	<p>先日、市長を交えて PTA 連合会会長と話をした中で、学力向上は大事であると皆の考えが一致し、学校と連携して家庭での約束ごと等を考えていきたいとの意見もいただいた。各学校の PTA 会長が学力向上について熱い想いを持っているため、是非家庭教育の在り方について学校ごとによく話し合い、進めてもらいたいと各校校長にお願いしているところである。</p>
	学校教育課長	<p>市議会で脊柱側弯症の健診について質問があったとのことだが、多くの方が姿勢に多少の歪みがあると思うが、側弯症と病名がつくとかなりの歪みであり、50 分間の授業を受けることがなかなか難しいのではないかと思う。病気を発見することはもちろん大事だが、歪みを生じさせることを防止する日頃からの取組をお願いしたい。早期発見、早期治療よりも前に予防、さらにその前に健康増進に取組み、バランスのとれた体作りをすることは保健体育の一つの目標ではないかと思う。</p>
	柿沼委員	<p>予防に関する取組としては、「立腰教育」と言って腰を伸ばし、姿勢を正すということを西中学校が中心となり行っている。そこから川俣小学校や三田ヶ谷小学校等、市内に広がっている。関連して食育も羽生北小学校を中心に広がっているため、引き続き推進していきたい。「側弯症の疑いがある」と所見のあった児童生徒はあるが、側弯症と診断された児童生徒はここ数年で軽度のものが 1 名あっただけで重度のものは一切無いことを付加える。</p> <p>夏休みキャロットルームクールシェアの 2 日目に参加させていただいた。子ども達が笑顔で、教える先生方も子ども達以上に楽しんでおり、素晴らしい事業であると思う。参加した子どもの一人に感想を聞いたところ、「楽しかった。ご飯が美味しかった。」とのことだった。このような事業に、恵まれない環境の子どもが参加しやすい体制を整えることが重要と考える。</p>

会議事件名	て ん 末	
	春山委員	<p>本当に支援が必要な家庭は、歩いて行ける距離にある公民館へも来ない。勉強だけしに来いと言っても、なかなか来ない。では、美味しいご飯が食べられるとか、居場所を作ってあげてをまず考える必要があり、併せて勉強もしようという事業を目指そうと思っている。</p>
	生涯学習課長	<p>人権推進課と共催したパープル羽生での事業でも、ランチを組み込んだことで参加者が増えていると思う。生涯学習課としても居心地の良い場所を提供できるよう取り組んでいきたい。</p>
	教育長	<p>学力アップ羽生塾でも、なかなか人数が集まらないが、このクールシェアでは55名もの参加があった。まさしく春山委員が話した、食という魅力と共に学ぶことの相乗効果で家庭を含めた子ども達の支援ができる。このような取組が上手く市内の他の地域に広がっていく方法はないか、年度当初から模索しており、もう一歩発展することができれば良いと思っている。</p>
	古市委員	<p>市議会でのムジナモ自生地に関する質問に対する答弁の中で、埼玉大学の金子教授の名前が挙げたが、埼玉大学記念公開講座の第一回目でトップバッターとして金子教授が羽生のムジナモについての研究について話した事が新聞に掲載されていた。羽生市にとって金子教授は非常に大切な存在なのではないかと思う。</p>
	生涯学習課長	<p>金子教授には、ムジナモ植生回復検討委員会で副委員長を務めていただいている。定期的に自生地を見に来ていただき、指導助言を受け、ムジナモの数が飛躍的に増えているところであり、今後も継続して協力をお願いしたいと考えている。</p>
	生涯学習部長	<p>古市委員が話した埼玉大学で行われた講演会に参加し、話を聞かせていただいた。埼玉大学の広い講演会場が満杯になっており、さらに、会場に入れなかった方が別の教室でモニターを通して講演を聞いているような盛況ぶりだった。ムジナモに対して興味がある方がこんなにもいることに、大変感動した。</p>

会議事件名	て ん 末	
	春山委員	金子教授には、いつ頃からムジナモ自生地に関わっていただいているのか。
	生涯学習課長	平成21年から実施した緊急調査に5年間携わっていただいているが、それ以前に実施した総合調査において、金子教授が師事していた教授に協力をいただいた時からである。
	春山委員	害のあるものをきれいに取り除くのではなく、共生することで飛躍的に株数が増加する成果に辿り着いたと以前報告があったが、そのことを発見、提案したのはどなたか。
	生涯学習課長	埼玉大学に調査業務として委託をしたが、大学の研究チームの他、色々な方の協力で5年間調査した中で、ムジナモを過保護に育てるのではなく、周りで生きている一つ一つの動物の特徴を捉えてたくさんの方法を試したところ、成果が現れたようである。
	高瀬委員	学校給食応援団制度についての答弁中、地産地消率が平成25年度までは増加し、その後若干低下したのは、どのような原因であるか。
	学校教育部長	一番大きな原因は、イオンアグリとの材料供給に関する契約において、採算が合わなくなったキャベツの契約を打ち切った。学校給食でのキャベツの使用量はその占める割合が大きい。このことが地産地消率の低下に影響しているのではないかと思う。
	給食センター所長	地産地消の推進については、農政課とも調整を図っており、11月17日に学校給食でベルギーの料理を提供する予定だが、羽生市産の地ビールを使ったメニューを考えている。ビールで肉、野菜等をやわらかく美味しくするためであり、アルコール分は調理している間に飛んでしまう。学校給食センターとしても羽生市の食材を少しでも使うことができるよう取り組んでいきたい。
	春山委員	コミュニティスクールについて、モデル校として川俣小学校が進められているとのことである。コミュニティスクールは地域の

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第4 議案第46号 羽生市産業文化ホール指定管理者の候補者の選定について</p>	<p>学校教育部長</p>	<p>協力を得て運営されるが、これまで羽生市においては学校応援団がそれぞれの学校で大きな役割を果たしてきたと思う。それを一歩進めて、コミュニティスクールが地域の課題を解決するような、地域の中心となるような存在になれば良いと思うが、いかがか。</p>
	<p>教育長</p>	<p>学校の様々な教育活動について承認を得たり、意見をいただいたり、さらに踏み込んで学校にどのような職員が必要かという意見まで取り込んで学校教育を豊かなものにしようとするところが法律の趣旨だが、それと同時に地域の活性化や、地域の問題を学校教育と関わりながら改善することを考える機会にもなるのではないかと捉えている。川俣小学校では、教育活動についての協議のほか、地域の総合防災についても一緒に考え、地域と学校と合同の避難訓練を実施する計画もある。</p>
	<p>教育長</p>	<p>議会答弁の中にもあるが、市内すべての教職員がコミュニティスクールとは何かということ学ぶために、川俣小学校で羽生版コミュニティスクールを実践した成果を発表し、文部科学省の担当官より講演いただき、研修を行う予定である。羽生市教育委員会もサポートして、より良いコミュニティスクールを立上げていければと思う。</p>
	<p>教育長</p>	<p>報告事項については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	<p>教育長</p>	<p>議案第46号について生涯学習課長から説明を求めた。</p> <p>生涯学習課長</p> <p>羽生市産業文化ホールの指定管理者の候補者として、株式会社ケイミックスを選定することについて諮るものである。指定管理者の期間は、平成29年4月1日から平成34年3月31日までの5年間である。今回選定にあたり公募を行ったところ3者の応募があり、指定管理者選定委員会で公平公正に審査を行い、最も採点</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>の高かった同社を選定するものである。同社は平成 26 年度から平成 28 年度までの 3 年間、当該施設の指定管理者となっており、省エネルギー化に積極的に取り組み、施設維持管理を適正に実施している。また、再び利用したいと思える新たなサービスの導入と、多彩な自主事業の展開により、市民に親しまれる施設運営が期待できるということから、候補者として適格であるとした。</p>
教育長		議案第 46 号について意見・質問を求めた。
古市委員		株式会社ケイミックスが指定管理者となる前は、どのような運営形態であったか。
生涯学習課長		平成 26 年度に指定管理者制度を導入する前の 2 年間は、羽生市直営であった。その前は財団法人羽生市地域振興センターによって運営されていた。羽生市直営で運営していた期間に、施設の大規模改修工事を着手し、工事完了の目途が立った頃に指定管理者制度を導入したという経緯である。
古市委員		株式会社ケイミックスが指定管理者となってからの事業の内容、評価、評判はいかがか。
生涯学習課長		自主事業では、葉加瀬太郎や松竹大歌舞伎等、有名な演者が来るようになってきている。また、施設面、サービス面としては、ホールのエントランスでインターネットを使えるようにしたり、駅からのシャトルバスを運行したり、障がい者の方にも優しいように筆談等の配慮をしている。利用者からの評判も良い。
教育長		市民に親しまれる施設づくりに努めてきた結果、引き続き指定管理者の候補者に選定することとなった。審査時のプレゼンテーションも良かった。
古市委員		同じ事業者が来年から指定管理者を引き続き行うということなので、事業計画もさらに進むであろう。例えば東京アカデミック

会議事件名	て ん 末	
議案第47号 羽生市公民館館長の 任命について	教育長	管弦楽団が羽生市を拠点として活躍して自主公演を行う等、事業計画を進めていただければ有難い。  指定管理者の期間は5年ということなので、継続性も重視されてより良く運営できるのではないかとと思われる。
	教育長	議案第46号については、よろしいか。  異議なしの声あり
	教育長	議案第46号については、可決された旨宣した。
	教育長	議案第47号については、人事案件のため審議を非公開とする。 議案第47号について生涯学習課長から説明を求めた。
	生涯学習課長	村君公民館館長より辞任願が提出され、欠員が生じたため、候補者を任命することについて、議決を求める。任期については、前任者の残任期間とし、平成28年11月1日から平成29年3月31日までである。
	教育長	議案第47号について、意見・質問を求めた。  特になし
	教育長	議案第47号については、よろしいか。  異議なしの声あり
	教育長	議案第47号については、可決された旨宣した。 これより会議を公開とする。

会議事件名	て ん 末	
	教育長	次回教育委員会日程について事務局より説明の旨。
	教育総務課長	11月定例教育委員会は、11月17日10時から学校給食センターにて開催する。
	教育長	<p>閉会を宣した。</p> <p>教育長 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>書 記 _____</p>